

総務経済常任委員会 所管事務調査報告書

2019年11月13日

富士見町議会
議長 矢島 尚 様

総務経済常任委員会
委員長 三井新成

総務経済常任委員会は、2019年11月6日、富山県朝日町を訪問し、同町町長及び担当課職員から移住・定住事業等についての説明を受けました。下記の通り報告します。

記

訪 問 日 2019年11月6日
訪 問 先 富山県下新川郡朝日町役場
視察テーマ 移住・定住事業
視察参加者 三井新成、牛山基樹、名取久仁春、島 正孝、小倉裕子

1. 所管事務調査の目的

朝日町は、2040年までの人口減少率が県内15市町村で最も大きいと推計されていた中、平成27年度より「移住定住対策」と「空き家対策」に一体的に取り組み、成果を上げている。人口減少、高齢化にどのような政策を施したのかソフト面・ハード面共に視察を行う。※人口・・・昭和30年24,256名 平成27年12,237名

2. 視察報告

説明は、まず笹原町長より概略がなされた。概要は次の通り。

①海、森、山(白馬だけの山頂まで)の資源がある。

②地域おこし協力隊は現在16名。

③町おこしを本格的に始めるきっかけとなったのは、公立病院の再生。

公立病院が20億を超える赤字となっており、医師の離職率も高く、立ち行かない状況を打破するために、病院内に「改革実行委員会」を立ち上げ、病床を199床から109床に減らし、平成30年度に5億をかけて全面改装を行った。それと共に徹底的に就業環境改善に取り組んだ結果、人材も集まり、現在は黒字に転換している。

- ④自分の町さえよくなればいい、という考えは持たず、発展的な考えのもと、古民家購入・空き家情報バンク立ち上げ等行った結果、人が人を呼びこむ流れができてきた。
- ⑤朝日町は人口減少の速度が速かったため、過疎地に認定され過疎債を利用することができた。その措置が図られている間にハード面に投資を行った。今後、今までのようには行かないが、ソフト面の充実を図り、ハード面への投資を活かして行く。

その後、企画振興課及び建設課により具体的な説明が行われた。

<移住定住対策に関する朝日町の主な取り組み>

- ①空き家情報バンク
町は、情報を収集し発信するだけで、直接物件や土地等の取引にはかかわらない。
- ②空き家コンシェルジュ
各地区に1名ずつ空き家コンシェルジュを置き、空き家情報バンクへの登録を促進するほか、入居者と地域の橋渡し役や新規の空き家情報の提供等を担っている。
- ③移住定住相談員
実際に移住してきた方に依頼し、相談員として、移住の相談に来られた方の質問に対応したり、住民との交流の機会を作ったりしている。現在一名。
- ④地域おこし協力隊(現在16名)・・・現在までに3名が移住
- ⑤さゝ郷ほたる交流館
市街から山へ数キロ入った「笹川地区」の、以前庄屋だった家屋を改修し、移住お試し滞在(最長4泊5日)を実施している。また、移住相談の場所としても活用。
- ⑥お試し住宅
空き家を改修し、中長期の滞在に使用。現在4つの家屋があり、家族連れも含め全て使用されている。
- ⑦移住定住拠点施設(こすぎ家)
駅前の空き家を改修し、地域おこし協力隊が常駐している。空き家・アパートの紹介、求人情報の紹介、移住定住に関する町補助金の紹介、観光案内等、様々なことに使用している。また、前面の事務所の奥には、広い部屋があり、集会所として、また放課後の子どもの居場所としても活用している。
- ⑧移住セミナー(ふるさと回帰センターの活用)
年5~6回、首都圏に移住定住担当職員が赴き、移住希望者に対し「移住セミナー」を実施。場所は、有楽町にある東京交通会館内のふるさと回帰支援センターを活用。
- ⑨移住・定住ガイドブックの作成

お試し住宅物件情報、先輩移住者のライフスタイル、生活お悩み Q&A 等の情報を集約し掲載。セミナー実施時や、移住相談対応時に配布。

⑩移住体験ツアー

相談者の都合に合わせ、一名でも実施している(随時開催)。友達紹介も行っている。平成 30 年度は、37 組 83 名の参加者あり。

⑪空き家利活用促進対策事業・・・空き家改修費補助、空き家家財道具等処分費補助

⑫朝日町定住サポート事業(住宅取得奨励金交付事業)・・・住宅取得奨励金交付

⑬フラット 35

朝日町と住宅金融支援機構が連携して行っている制度。町の「住宅取得奨励金交付事業」による補助を受けた場合、金利優遇措置を受けられる。

⑭空き家実態調査

2～3 年に一度のペースで、朝日町全域を町職員約 100 名体制で調査を実施。ランク付けを行っている。結果、情報が整理され活用され、空き家の数に歯止めがかかった。また、空き家所有者に毎年発送される固定資産税納税通知書への空き家情報バンク加入促進チラシの同封を行い、一定の成果を上げている。

⑮空き家等対策審議会・・・特定空き家等の認定基準を決定。

⑯あさひまちバスの運用

朝日町のバス運行状況は、現在の富士見町とかわらないものだったが、京都大学と提携し、社会実験として従前からの公共バスに加えて運航開始。バスは町で購入。バスを、誰も乗っていない状態でも、定時に走らせることによって町民が利用するようになった。結果免許証返納も進んだ。今年 11 月に「富山県統一バスロケーションシステム」がされる予定となっており、さらにバス位置情報等運用しやすい情報が得られるようになる。

3.まとめ

まず印象に残ったのは、「発想の転換」と「前向きな発想」だった。立地条件の良さも一因かもしれないが、町全体が一体となって移住定住促進及び町の活性化・発展に取り組んでいる印象を受けた。

空き家、土地に関しても、町が買い取って売るという方法ではなく、あくまでもパイプ役に徹し、引き合いがあった時点で、不動産会社に任せるというリスクの少ない方法を取っている。町もその成果があつてか、空き家や放置され荒れた土地が目立たず、きれいな町が実現できている。

情報の発信も積極的にされており、固定資産税納税通知書への空き家情報バンク加入促進チラシの同封などは、富士見町でもすぐに検討するべきだと思う。

行政の仕事とは思えないほどの、発想力・フットワークの軽さは今後富士見町でも見習っていくべきである。

【文責 小倉裕子】



←朝日町役場では、町長が積極的に町の取り組みについて説明。



町長及び役場担当職員の説明を聞く総務経済常任委員。



←移住定住拠点施設(こすぎ家)

駅前、庭付きの空き家を改築したもの。

入ってすぐの事務所に地域おこし協力隊員が常駐している。入って右側から奥に入ると広い2間続きの和室があり、町民が多目的に使用している。



←笹川地区にある、古民家を改修した「さい郷ほたる交流館」。管理者が常駐している。



役場担当者に説明を受ける総務経済常任委員。



←ヒスイ海岸
海から住宅地へ、山、北アルプスへと、恵まれた立地にある。